

研究所10年史を讀んで

—— 研究所の成果を職場・地域の教育運動に生かしたい ——

内山雄平

この一〇年間で会員の拡大を大いに進め、すぐれた研究成果をあげている研究所の存在は私たちに大きなはげましと沢山の教訓を与えてくれました。

その一つは「新潟県の教育運動を教育学をふくむ諸科学の成果の上に成り立たせるために、新潟県にそくした研究を組織し、また独自の自由な研究を通じて、地域の教育運動の発展に貢献する……（設立の目的）」という考え方であります。諸科学の成果をきちんと土台にすえ、県内のすぐれた実践を研究対象化してあくまで新潟の状況に即して教育研究運動をすすめる態度におおいに共感しました。

私たちの組合は一九九〇年に「労使協調路線の連合」に組み込まれた日教

組の組合と訣別し、「こどもと教育を守ろう」というスローガンを掲げる全日本教職員組合に加盟しました。それまでのいわゆる「総評型」運動のすすめ方は幹部が運動の枠組みを考え、下部に指令、指示をあたえて運動をすすめるやり方です。

このため職場は自主的に運動を組み立てる作風が押さえ込まれすっかり活気が失ってきていました。職場の要求が大きく前進しないことを肌で感じてきました。訣別してから四年、多くの試行錯誤を繰り返しつつ私たちは本部指示にもとづく活動から一八〇度活動スタイルをきりかえ職場、地域の教育要求、生活要求にもとづく活動をめざしているんな取組をしています。

こうした運動のスタイルを一人、一人の組合員がしっかりと身に着けるには職場の仲間たち、学校・地域のこともたちの状況をひろく、深くつかむこと、そういう状況の中におかれている自分自身の生活の、教育の要求をきちんと自覚してみること、そして何よりも「自分の頭でかんがえながら運動を科学的にくみだてていく力をもつ事」がもとめられます。いままではなかなかできなかった分会の新しいおおきな課題です。

組合の県本部もそれをきちんと援助するために、全国のすぐれた教育運動の成果・教訓を組合員に情報として適確につたえることは勿論ですが、なによりもそれぞれの職場の現実にふさわ

しい教育問題、生活問題にかかわるデータを提供せねばなりません。これらの新潟県の各職場にふさわしい情報の収集は本来、自らの組合のきちんとした研究組織を造り上げていくことで確立していくべきなのでしょうが、いまだ〇〇対策研究委員会レベルの状況です。それをおぎなってくれているのは研究所の手で県内の教育状況を総合的にまとめられた「大学進学問題」「多忙化問題」「不登校問題」「障害児問題」等々の研究成果です。これからまとめられると聞いている「いじめ問題」「家族の問題」にも大きな期待をもっています。

ところで研究所が教員だけでなく弁護士、医師、大学人、労働者、商店主、主婦等々実に多彩、多様な会員を擁しておられること、その各層の方々が機関誌「にいがたの教育情報」の誌上で自在に新潟県の教育に発言をされています。一〇年小史のはしがきに「すべての団体から独立し会費と個人の寄付によってのみ運営される「会員制」の

研究所を設立した」という事を自負にみちて宣言している箇所がありました。二つ目として研究の自由にかんするこの態度に学びたいとおもいます。

これに関連して、わたしは海老原善治氏がかつて「組合は組合の「教育研究運動」を自らの労働運動に従属させなくてはならない。運動の方向と逆の研究であってもそれを組合が守り保障しなくてはならない。」と鋭く指摘したことを思い起こしています。私たちが決めた組合は側聞するところによれば、自分たちの進めている労働運動に教育研究活動を従属させてきた結果、教育研究集会に魅力を感じなくなった人が増えているそうです。わたしたちは一人一人の組合員の自由な教育研究、自由な教育論争をおおいにすすめていきたいと思えます。研究所の研究の自由の原則を守り抜く意味をわたしたちもきちんとつかんでいこうと思えます。

きないことも個性」だという考え方もとづく「新しい学力観」と整合性をもつ高校教育制度の再編にのりだしてきました。いわゆる大学進学校を二割、職業高校（専門高校）を二割、総合高校を六割という高校の差別的な学校再編の方向です。機関誌「新潟の教育情報」四〇号では新潟県の大学入試問題を特集しておりましたが、上記のような新潟県の後期中等教育激変についても研究所の会員のみなさんのご意見がたくさん聞ければと思います。また、生徒や保護者の経済的負担が軽減され、高校の教育現場の願いにこたえる新潟県の教育予算が組み立てられるために研究所が今後の研究課題の一つにあげられている「新潟県の教育行財政の基礎的研究」にも大きな期待と関心をもっております。私たちも奮闘します。共に研究活動の発展をねがって頑張りましょう。

（うぢやまゆうへい）新潟県公立高等学校教職員組合前執行委員長